

# 教えて先生



ママの悩み



Q

うちの子三歳は、なんにもできません。いつかできるようになるだろうと甘やかしていたせいか、着替えや歯磨き、トイレもできていません。食事の時ですら「あ〜ん」と口を開けることもあります。このまま幼稚園にいれるのが不安で、いまから心配しています。これからバタバタと自分で何もかもさせてみた方がいいのでしょうか？

## A

三歳になつて入園期を迎えたのに、自分では何もしようとしていないお子さんを心配し、急いで一人立ちできるようにした方がよいのかというご質問ですね。

その不安を更に増幅させるかもしれませんが、最初に三歳期の標準的な生活習慣の自立について記してみましよう。

身のこなしがスムーズになる三歳児は、まねが大好き。大人の行動を一生懸命見習つてまねしようとし生活習慣が目立つて自立化に進もうとする時です。勿論、子どもには個人差がありますから、あせりは禁物ですが、食事を例にとると、三歳児はスプーンとお茶碗やお皿を両手で上手に扱い、お箸も何とか使いこなし、二歳児に比べると好き嫌いも少なくなりま

す。ご質問の排泄も、昼間のおしっこは、脱着しやすいデザインの衣服ですと完全に自立できる子の方が多いのですが、遊びに熱中すると失敗することも珍しくありません。又、いつも「おしっこはいい？」と言い過ぎると、言わなければ行かなかつたり、も

らしたりします。着替えも「上手ね」とほめられると一生懸命やるうとしますが、着ることより脱ぐ方が上手ですし、日や時間によつて多少のむらがあります。

食前・排泄後の手洗い、食後の歯みがきはまだ完全には出来ないのが大人と一緒にやりながら丁寧にコツを

教えて身につけさせていくことが大切です。

三歳期は、この他、生活リズムも、生活習慣も目立つて伸びる時ですが、ご心配の状況は、少し耳が痛いかもしれませんが、ママの甘やかしの故かしら？甘えを受け入れるのは大切なことですが、言いなりに甘やかすは、あとで今回の質問にあるようなママの悔みにつながるようになることもあります。

子育ての最終目的は一人立ちですが、赤ちゃん時代から時期に適した大人の関わり方の結果として、何でも自分で処理できる、たくましい子どもに育つのですから、バタバタしつけの促成栽培では上手くゆきません。

発達のスピードには個人差があることは既に述べましたが、一歳すぎの頃から「世話をされる生活から自分でする生活」へと進みます。特に食事の点で、それが目立ってきます。自分で食べたがるのですが技術は下手ですから食卓は惨憺たるもの、神経質なパパ・ママは見えてもらえず、つい手を出すとかんしゃくを起こすこともあるでしょう。保育園では手づかみでも食卓が汚れても食べる意欲を尊重しますから、スプーンを持たせ、時にはお口に入れながら楽しく食べることを大切に、「こうする」といいよと教える大人を真似て、上手に食べるようになります。着脱も同様、二歳頃には自分でや

らうとする意欲は示しますが技術はやっぱり下手。パンツの片方に両足を入れたり、ボタンがはめられないとかんしゃくを起こし、手伝おうとするとママの手を払いのけます。この誇り高き二歳児のプライドを傷つけないよう、さり気なく手伝い「ほら出来た！上手になったね」と認め、よい気持ちにさせながら自主性を育てていくとよいのですが、こんなプロセスを経て三歳期という大人への出発点に立つのです。

「じゃあ、もう駄目なの」とママの心配をふくらませたかも知れませんが大丈夫。でも入園前だからとあわてて急ぐ余り、やさしいママが恐いママに豹変しては逆効果ですから、一・二歳頃までに戻つて、あせらず、ゆつくり、でも大きくなった自覚を持たせながら前述のような関わりの中で自立の方向に導いて下さい。入園を意識し過ぎて急ぎ過ぎないように。ママ、大変でしょうが頑張つて下さい。入園してからだつて続けることも出来るんですから。

藤岡 佐規子先生  
ふじおか さきこ



1946年、京都女子専門学校保育科を卒業後、光沢寺保育園に入職。以後一貫して乳幼児保育に従事。現在、光沢寺第二保育園園長。北九州市保育所連盟会長、国際婦人開発基金(ユニフェム)日本国内委員会北九州地域等委員会会長、財団法人アジア女性交流研究フォーラム理事、同児童福祉施設等第三者評価委員会・同社会福祉審議会各委員等(以上、現職)。この間、全国社会福祉協議会全国保育士会会長、福岡県保育協議会会長、同保育士会会長、福岡県立大学・西南女学院短期大学非常勤講師等を務める。

- 仲間達への定期便(西部統売開発出版部)
- 育てよう、いきいきっ子(共著、蒼丘書林)
- 子どもと環境(共著、蒼丘書林)
- 感性を育てる保育実践領域環境と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域人間関係と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域言葉と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 保育園の窓辺から…(蒼丘書林)
- 視点はいつも、子どもたち(保育園の窓辺から…PART2(蒼丘書林))